

令和元年度評価点「5」「4」からの評価点減点項目について

- 法人として令和元年度の評定で「5」や「4」をつけた項目の中で、令和2年度の事業活動において評価点が下がったものについては、以下のとおりである。

項目	項目内容	R元 →R2	評価理由
10	バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修	4→3	R元年度の高評価は、科学館における「ポケット学芸員」の導入など、特筆すべき先進的な取り組みがあったが、令和2年度は計画どおりの進捗であったため。
11	常設展における展示替え	4→3	R元年度は、観覧者数が過去最高の館があるなど、観覧者が好調であったため。
12	自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化	5→4	R元年度は、自主企画以外の特別展の実績も加味して評価していた。
25	マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致	4→3	令和2年度は、コロナ禍でマスメディア連携の特別展等が中止や延期になり、実施件数が少なくなった。ただし、実施したものについては、会期延長などの特別対応を行った。
33	民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発	4→3	令和元年度に比べ、特筆すべき内容はなく、計画に掲げる内容を滞りなく実施したのみであったため。
51	包摂的な社会にふさわしい人材の獲得	4→3	令和元年度は、包摂の意味を狭隘にとらえ評価していたため。
52	法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲)	5→4	令和元年度は、人材確保の定量的な評価指標のみでの評価だったが、令和2年度は、育成等の年度計画も変わり、定性的な評価指標が異なっているため。